

2022(令和4)年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
本人家族交流会 若年性認知症カフェ 報告書

若年性認知症カフェ

目的：若年性認知症カフェ内で、ご本人と介護家族の交流を深め、孤立しやすい若年性認知症のご本人と介護家族のネットワークづくりを促す。

当カフェの特性

- ・ 孤立する県内の当事者及びその支援者にピアカウンセリングの場を提供する。
就労型活動自助グループの活動の場として提供し、当日初めて参加される当事者とその家族との交流を、自助グループの方に積極的に行っていただけるよう依頼している。
- ・ 経験と技能を活かす場をめざす。交流会の場も活動の場として提供し、それぞれの活躍の場を増やすよう支援する。例：ギターや英会話などそれぞれの特技を活かした教室の開催等
- ・ カフェ内で当事者の意見を活発に頂く。施策へ反映されるよう、意見をまとめる。

1. 日時：2022年12月17日(土) 1回目：13時～14時 定員6名程度

【会場】 新オレンジサポート室（宜野湾市普天間1-9-3）

2. 本日のプログラム 各1回：交流会（近況報告）

3. 参加者数 1回目 8人（内訳：当事者 0名、家族 4名、専門職 4名）専門職サポート含む

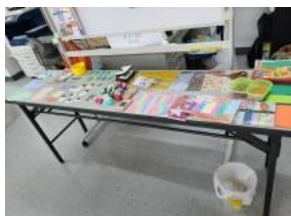
4. 当日の様子

月日が経つのは早く、年の瀬を迎えます。今日は予約された方が3組でした。13時からの1回目の会のみ開催としました。若年性認知症就労自助グループ“フンドウ”の代表参加もあり、コロナ禍や病気の進行もあり畑の活動が難しくなっている状況のこと、今後の畑活動についても設立者で集まって話し合いをしていきたいとの声もありました。「小さな図書館から借りて読んだ本が自分と全く同じ状況で涙が出た」「配偶者の介護をこれまで子供達に負担を書けない様にと、一人で頑張ってきたが、最近は自分も年齢を重ねて、介護している一つ一つの行動・介護の選択の仕方には意味があっているということをお子達にも解ってもらえるような動きを考えるようになった。」本人や家族との関わり方、考え方も変わったという介護経験者だからこその声がありました。クリスマスモニュメント作りも楽しみました♪

5. 所感

「介護者も自分のストレスを発散しないと次に向かえない」介護に疲れた人の吐き出す場所が必要だと参加者からの声。ここに来る時は暗い表情で来ても、帰りに霧が晴れたように笑顔で自宅に戻る家族の姿を見ると、コロナ禍だろうと“集う居場所の大切さ”を常に意識させられる。

お土産は うるま市石川のプティファールの3種類のスコーンです（^^♪。



以上